

## 中島紙工

## [Smart Slitter]見学会開催

## 筋・ミシンの小ロット対応を図る

(株)中島紙工(中島館社長)では、10月7日、3回に分け、名古屋・新栄の本社工場において、新設備シートカット&クリーサ「Smart Slitter」の見学会を開催した。当日は、小ロット、短納期化、デジタル化が進む印刷に対応する同機の性能を実演した。参加者は30名。



Smart Slitter



機能の説明と実演をする中島浩貴取締役

印刷のロットは減少を続けている。また、そうした小ロットの仕事はデジタル印刷機が受け持つことで印刷は対応しているが、後加工、特にミシン、筋入れ、トムソンはセツト

に時間が必要であり、短納期対応や小ロットによる価格面で対応がネックとなっている。同社ではそうしたユーザーの要望に応えるため「Smart Slitter」を導入した。見学会では、中島浩貴取締役が各種機能の説明と実演で分かりやすく行なわれた。

「この機械はスジとミシンを入れる機械であるが、セツトが簡単に行なうので小ロットに向いている。100部ぐらいの仕事でスジを一本入れるのにセツトで30分かかってしまうという納期を「1日みておいて欲しい」となる。この機械なら「半日でなんとかやりまます」とできるのがメ

リットの一つである。当社ではスジ歯を太筋から細筋まで数種類用意している。紙厚によって筋を変えないと上手く入らない。2ミリ、1・3ミリ、0・8ミリ、0・5ミリをそろえているが、厚めの紙では0・8、0・5では少し鈍い感じである。2ミリ、1・3ミリならしつかり筋が入る。また、エボ紙にも筋入れが可能である。あと普段の筋ミシン機では山谷を通すためには2回通さなければいけないが、山谷を一度で通すことができる。この機械はデジタル制御されてい

るので定期のものであれば、呼び出して作業が可能である。

ミシンでは、連続と途中で止めてミシンを入れることができる。ミシンの種類もいくつもあり、マイクロミシン、少し荒め、もう少し荒めとあり、ジャンプも途中から始め、途中で終わることもできる。1回差して止めて、もう少し行つて差して止めて、もう一度行つて、差して止めることもできる。それらも一度にできる。普通の機械では2回通す必要があるが、これでは1度にL字がさせるので、少ない部数であれば便利である。

ただ、速度が時間、10000枚から1500枚なので、5万枚になると普通の機械でやったほうが良い。30000〜40000枚であればこの機械の方が早くて、綺麗にL字ができる。もう一つのこの機械の素晴らしいところは、位置の精度である。オンデマンド印刷では位置のズレが出ることも多いが、バーコードを一緒に印刷することによりバーコードの位置から断裁位置を読み取ることができる。黒四角で位置を測れるが、バーコードを入れることで仕事内容も記憶している」と特長を述べた。